

# 10月～11月秋の組合員拡大月間

## まだ組合に入っていない方をご紹介ください

一〇月～十一月は秋の組合員拡大月間です。ダンブ支部では九月二十四日執行委員会を開き、月間目標を六七〇人に定め取り組むことを確認しました。執行委員会の方では「仕事が暇で声をかけにくい」「対象者がいない」といった意見も出されました。

組合員の高齢化により組合員減少時代に突入することが予測されています。

組合員拡大は避けて通れない課題です。建設業の一人親方、トラック労働者なども含め、ぜひ対象者をご紹介ください。



県労連に加盟する意義について、あらためて正面から議論する重要性を感じた建交労代議員。

### さらには団結強めて 県労連定期大会

九月二十四日、県本部が加盟する栃木県労連第二十八回定期大会が宇都宮市で開かれ、県本部から代議員八人が参加しました。

大会では阿波議長が「今年度は野党共闘元年。後議論していきます。」

この流れを県内でもさらに広げよう」と訴えました。また厳しい財政状況も提起されました。県本部では県労連の実情を踏まえ、分担金のあり方について今後議論していきます。

### 少数支部、個人の受け皿 合同支部準備会重ねる

少数職場支部や個人加盟組合員の受け皿となる合同支部の結成をめざして、今春以降三回準備会を行い議論を重ねてきました。

参加者からは「新しい支部としての活動が負担になる」「支部財政が焦点となりました。」

政の管理をどうするか」「県本部と合同支部と重複する部分が多く非効率」など様々な意見が出されました。議論のなかであらためて現行規約における県本部と支部の位置づけが焦点となりました。



合同支部準備会。次々と課題が明らかに・・・。

## 【組合員紹介】 金子新平さん(81歳)

### 「重量で捕まるとチェンジ棒を抜いて・・・」

最古最強最高齢組合員金子新平さん。ついに登場です。

「出身は長野の立科。若い頃東京でガラス屋の修行して長野に戻って昭和三十七年頃栃木に来たんだよ。最初はミゼット三輪車にりんご積んでね。そのうち東京オリンピック(昭和三十九年)の関係で仕事が増えていすずの六トンドンプ(TX)で碎石積んで東京まで走るようになった」

「当時は重量の取締りが厳しくて、今の佐野合同タクシーのところに台買があつてね。捕まったらダンブ持って行かれないようにチェンジ棒



結成当初から組合を支える金子新平さん。

抜いて逃げてた。売上は当時で六〇万位、今とそんなに変わらないよ。燃料費は安いし修理は自分でやるから経費はかからない。いまから比べたら儲かったんだろつけど使っちゃったね」

「いまはスクラップの回収がメイン。もう無理はしない。春は山菜、秋はキノコ採り。まだ山歩きできるよ。今度の日曜日も高速走って茅野市まで一本しめじ取りに行く。まだやりたいことあるんだよ。」

## 一人親方「排除」 国交省ガイドライン

「もう一人親方は使えないって言われまして」。建設現場で働く組合員(職人)が突然下請から通告されました。

聞けば元請からの指示とのこと。調べると、今年七月末に国土交通省が出した「下請指導ガイドライン改訂」の影響であることが明らかになりました。

改訂されたガイドラインでは「適切な保険

に加入していることを確認できない作業員を現場に入場させないようにはすること」と明記されました。

実施は平成二十九年四月からですが、各地ですでに「排除」が行われています。

このガイドラインは平成二十四年、建設業界での社会保険加入をすすめるため策定されました。しかし、社会保険料負担を回避する

一人親方の職人同士で雇用関係をつくり労働保険に加入するなど柔軟に対応し就労を確保するケースも生まれつつあります。消費税の負担など問題山積です。

さらに問題はダンブの一人親方です。ダンブは「車もち労働者」です。だからこそ白ナンバーであつても就労権を確立してきました。しかし今後、国交省のガイドラインを「悪用」し「労働者なら労働保険に」「グループ化(業者化)なら青ナンバー」と、一人親方を「排除」を正当化することが懸念されます。

組合では今後現場の状況を踏まえ、国交省や発注者、業界団体にたいする要請に取り組みます。

【建交労栃木県本部定期大会】

日時 一〇月十六日(日)午前九時

場所 組合事務所会議室

【ダンブ支部定期大会】

日時 十一月六日(日)午前九時

場所 佐野市「あくとプラザ」